

KojiMemo(24)

2011-08-27

次期総理に告ぐ（その2）

またしても永田町のどたばた劇、今の制度である限りしかたがない
とはいえ、うんざりである。しかも多数派工作に頼らざるを得ない
ことから小沢の存在が大きく取りざたされているのが、なんとも腹立たしい。

次期総理には、どんな選び方をされたとしても、なった途端君子豹変する
ことを望みたい。つまりお世話になった人への恩義を捨て去って欲しい。
でないと筋の通った本当の改革はできない。

思い出すのが小泉時代の、森 元総理の「カビたチーズ事件である」
当時の小泉総理が少し乱暴に政治改革に手をつけようとして、長老である
森氏が「そんなことをしたら自民党がガタガタになってしまう」と総理
執務室に説得に行き、出されたのがカビたチーズで、部屋から出て
きた森氏が記者に、「まったく聞く耳をもたなかった。さじを投げた」と
ぼやいたのが報道され、次の選挙で自民党大勝利へとつながったので
ある。ふたりで仕組んだ芝居かも知れないが、森氏にそんな才覚がある
とは思えない。

そんな小泉でさえ、やれたのは自民党の小さな改革だけであり、官僚支配
構造の改革は、何もできなかった。

小沢氏の最近の言動で、ひとつだけ良いことをいっている。「次の総理として
死ぬ気で取り組む気概をもった人」である。今回の改革は人から評価され、
感謝されるのは10年後であるが、うらみと反感は直ちに表れる。先の
KojiMemo(8)でも述べたが、暗殺される可能性も十分ある。しかし、いったん
確たる道筋をつければ、何人凶弾に倒れようとも、改革は進めれるであろう。
その先鞭をつけた政治家として、歴史に名を残すことができる。

小沢氏について少し補足すると、「ひょっとして明治維新のときの西郷隆盛の
役割をになうことができるかもしれない」ということである。人徳があり、人の
面倒見がよくて、親分肌で、正義を重んじ、人格としては素晴らしい。
西南の役にて、旧来の武家社会の秩序と倫理感から抜け出せずにいた連中
をまとめて討ち死にを果たし、社会改革時の大掃除の大役を果たしてくれた。
同時代の会津の白虎隊もしかり、少し違うが大阪の陣の真田幸村も同様の

役割を担ったと言える。そこには人を感動させるさまざまな人間ドラマが生まれ、それはそれで生きたあかしを後世に残すことで大いに意味がある。

何百年に一度とかいう天災に襲われ、それに人災も輪をかけた今、政治家として大仕事ができる機会に遭遇できたとは、なんと幸せなことであろう。たとえ数年で命を落としたとしても、本望であろう。

2011-08-27 河村幸二 koji@sparj.com